

2021年3月期 第2四半期決算説明会

2020年 11月2日



日本ガイシ株式会社

NGK INSULATORS, LTD.



本日のプレゼンテーション

代表取締役社長
大島 卓

- 2021年3月期 第2四半期 連結決算概要
2021年3月期 通期 業績見通し
✓ セグメント別情報
- 設備投資／減価償却費／研究開発費
- 中期イメージ（ROIC・業績）
✓ 財務(CF/総資産・配当)

(億円)		20年3月期	公表値 6月→9月	21年3月期	前年同期比	
売上高		2,198	1,900→1,950	1,949	為替影響 △12	△11%
営業利益		316	30→100	116	△7	△63%
経常利益		297	15→100	122		△59%
親会社株主に帰属する 四半期純利益		212	10→50	73		△66%
換算レート	ドル	109円	(105→107円)	107円	△2円	
	円	121円	(115→120円)	121円	±0円	

対前年同期比 減収・減益

- エネルギーインフラ※ がいし、NAS®電池共に低調に推移し前年同期並み。
- セラミクス 中国市場を中心に回復しつつあるも、コロナウイルス感染拡大に伴う世界的な乗用車販売台数の落ち込みにより大幅な減収・減益。
- エレクトロニクス ウエハーやHDD用圧電素子の需要が増加するも、携帯基地局向けパッケージ需要の減少により減収。
- プロセステクノロジー 半導体製造装置用製品は3D NAND向け設備投資増等により、増収・増益。
- 特別損失 赤字が継続したパッケージ事業を中心に固定資産減損損失9億円を計上。

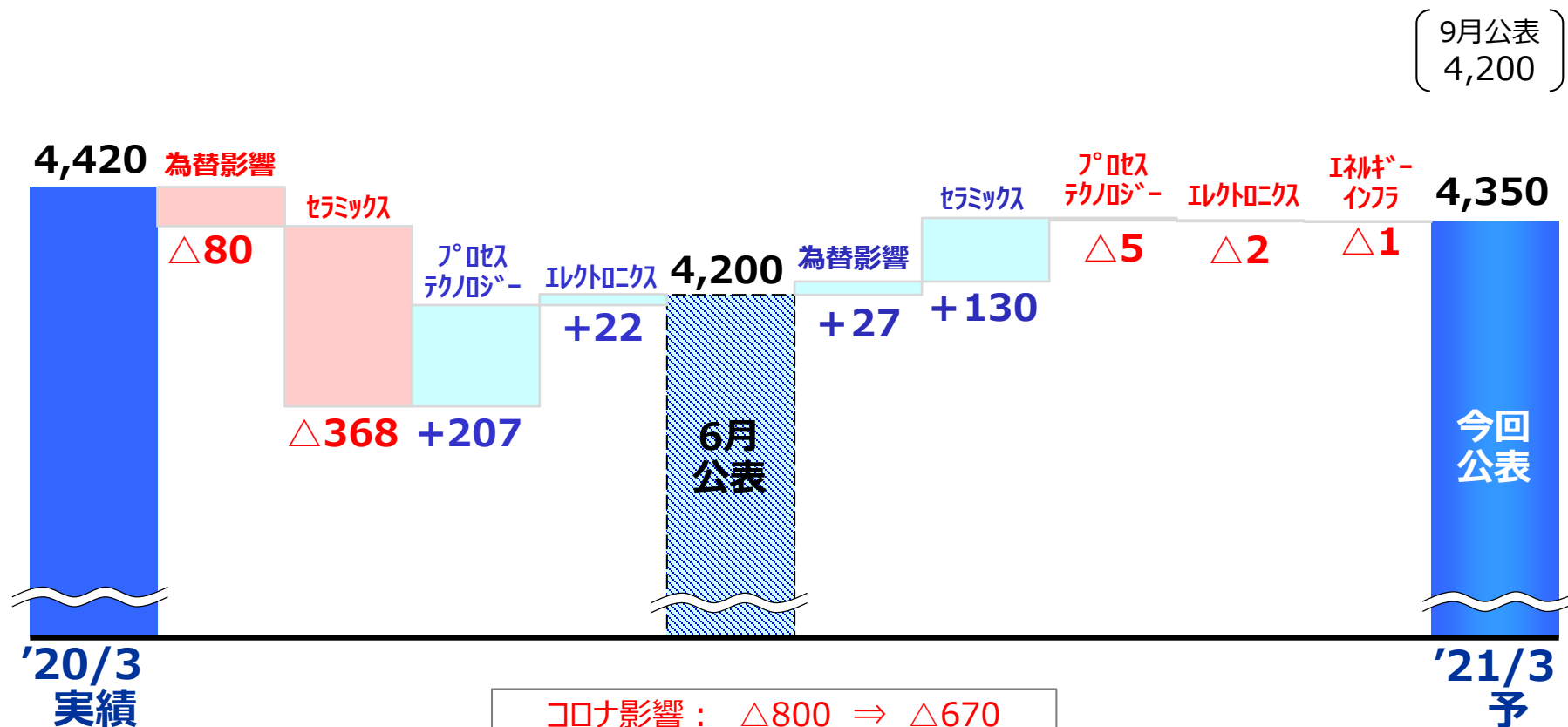
※21年3月期より「電力事業本部」を「エネルギーインフラ事業本部」へ改称

(億円)			20年3月期	公表値 6月→9月	21年3月期	前期比
売上高			4,420	4,200→4,200	4,350	為替影響 △50 △ 2%
営業利益			550	300→330	420	△14 △24%
経常利益			520	290→340	430	△17%
親会社株主に帰属する 当期純利益		特別損失 131億円	271	170→210	280	+ 3%
換算レート			ドル 1=109円	(105→106円)	106円	△3円
			1=121円	(115→118円)	118円	△3円

対前期比 減収、営業利益・経常利益は減益も当期純利益は微増
9月公表値から上方修正

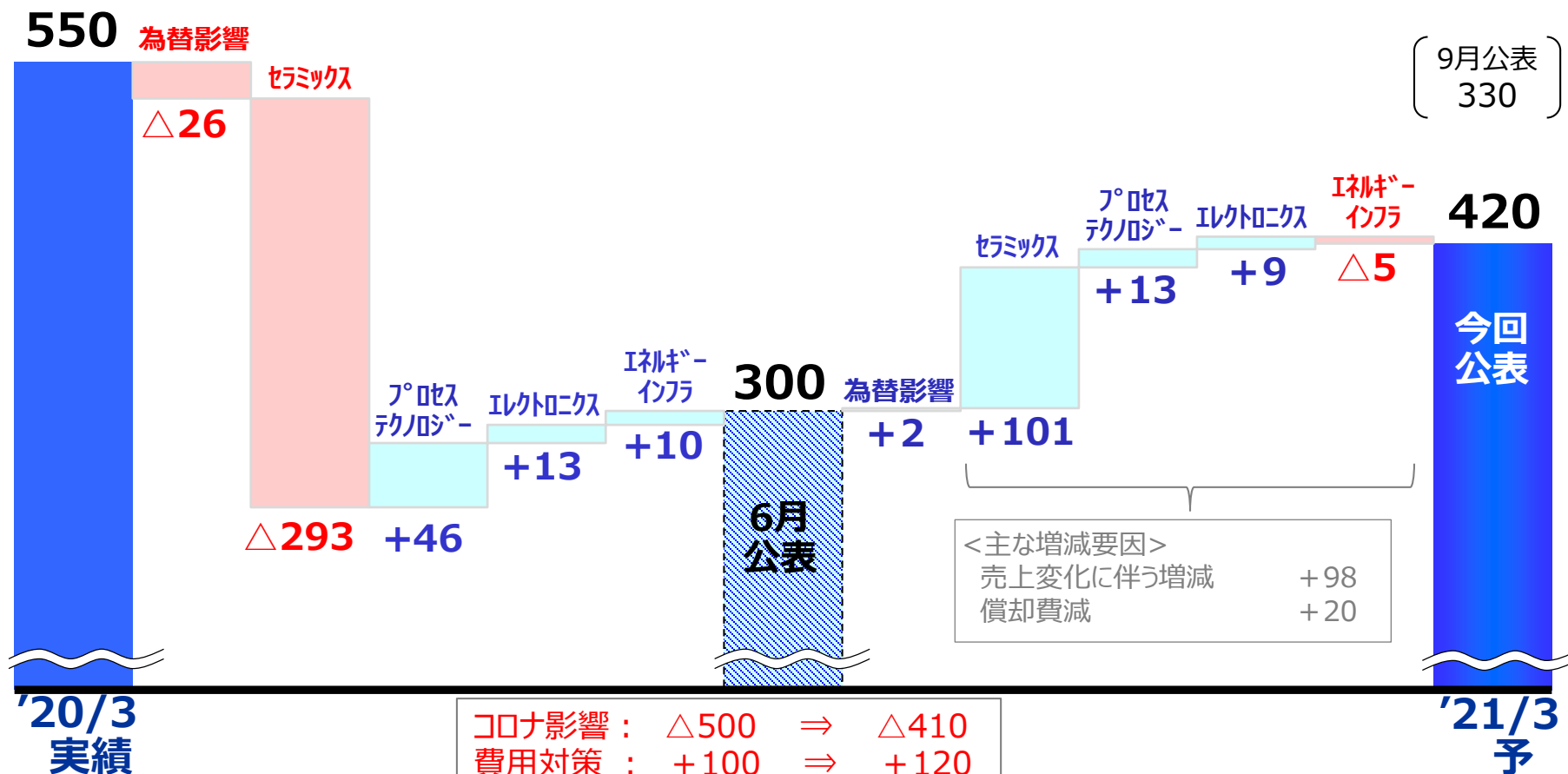
- Iねきーんわ がいし・NAS共に需要は低調。売上・利益共に前期並み。
- セラミックス コロナウイルス感染拡大に伴う世界的な乗用車・トラック販売台数の大幅な落ち込みを背景に、自動車関連製品の需要が減少し、減収・減益の見通し。
- エレクトロニクス 電子部品の需要が増加し増収・増益の見通し。
- プロセステクノロジー 20年3月期を底にメモリ投資の緩やかな回復基調を受けて増収・増益の見通し。

(億円)



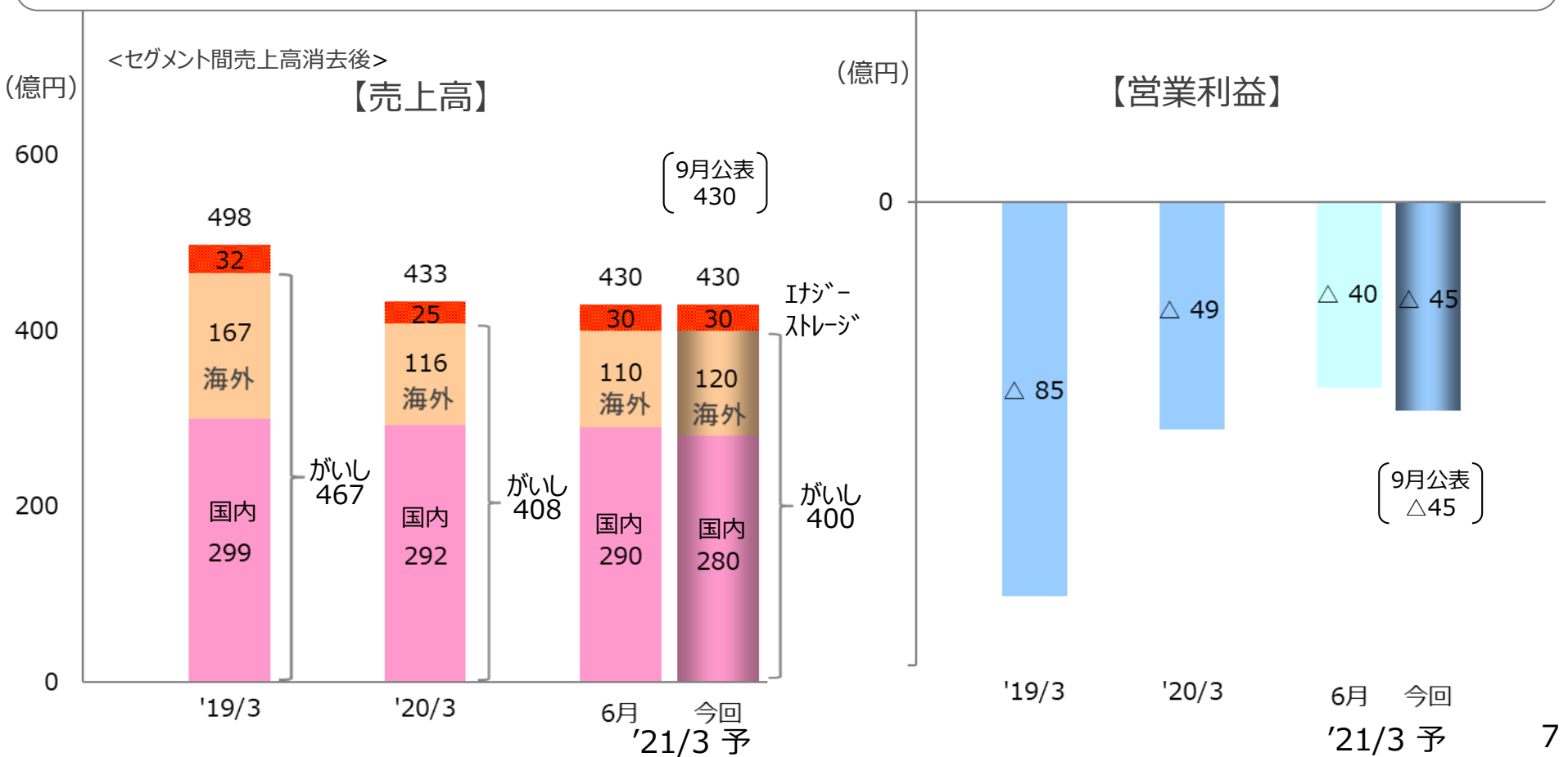
為替レート	前期('20/3)	6月公表('21/3)	今回('21/3)
	109円/USD	105円/USD	106円/USD
	121円/EUR	115円/EUR	118円/EUR

(億円)

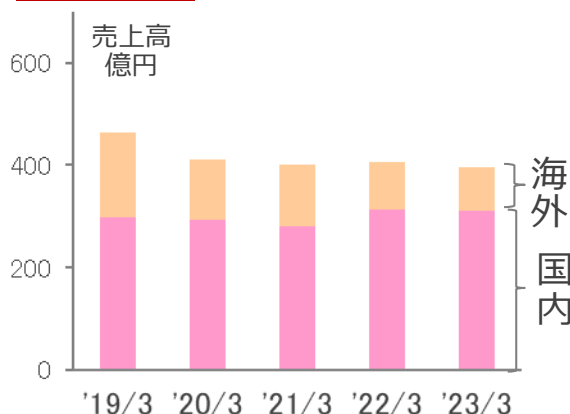


為替レート	前期('20/3)	6月公表('21/3)	今回('21/3)
	109円/USD	105円/USD	106円/USD
	121円/EUR	115円/EUR	118円/EUR

- がいし
 - ・国内は一般向け配電製品の需要が低調に推移する一方、海外は一部輸出案件の前倒しにより増収。
 - ・間接スリム化を進め、売上・利益共に6月見通しと同水準を見込む。
- イナジーストレージ
 - ・6月見通しから変化無く低調で、赤字が継続する見通し。



■がいし 早期黒字化を目指す



【市場環境】

国内：2020年4月から電力会社の「発送電分離」が始まり、電力システム改革は最終段階に入りつつある。当面は設備投資抑制傾向が続くものの、中期的にはレジリエンス対策としてのプロジェクト案件需要や更新需要などの拡大を見込んでいる。

海外：大型の新設プロジェクトは一巡しており、更新需要を確実に取り込んでいく。

間接部門スリム化、不採算製品見直しなど事業再構築を徹底しつつ、売価改善を進めることで来期黒字化を目指す。

■エナジーストレージ NAS®電池と亜鉛二次電池(ZNB®)で事業拡大を目指す



NAS®電池

【NAS®電池】

当面は国内VPP・更新案件の受注に注力。また、容量の大きさを活かした地産地消の電力システムモデル構築を目指す。

海外では、独・BASF社との提携を活かして、共同開発によるコスト競争力の向上と販路拡大を進め、長時間蓄電分野のシェア向上を図る。



亜鉛二次電池
(ZNB®)

【亜鉛二次電池 (ZNB®)】

安全性の高さを活かし、屋内用途を中心にマーケティング活動を進め、早期事業化を目指す。

大容量・長時間用途のNAS®電池と極めて安全性の高いZNB®により幅広いニーズへ対応。

●電子部品

- ・HDD用圧電素子はデータセンター投資が順調に推移し、ほぼ想定通り拡販が進む。
- ・複合ウェハー製品は5Gスマホの進展に伴う高性能フィルター需要の増加により増収・増益の見通し。

●双信電機

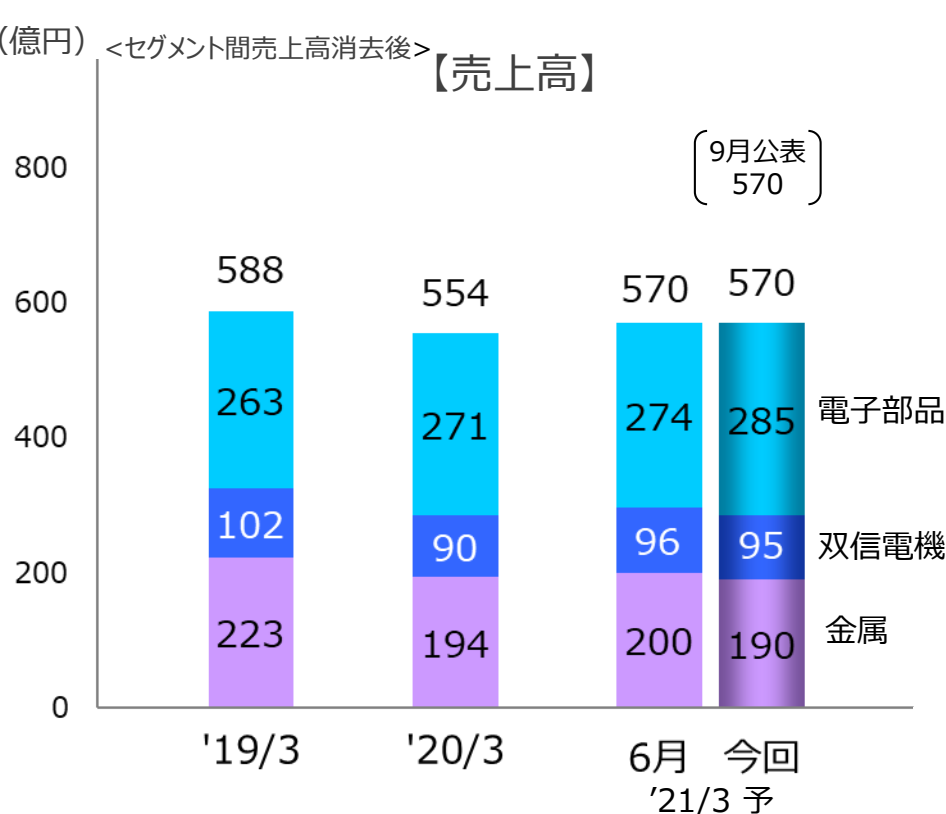
- ・車載用製品やノイズ測定機の減少により、減収・減益の見通し。

●金属

- ・航空機向け製品や金型製品の需要が減少し、減収・減益の見通し。

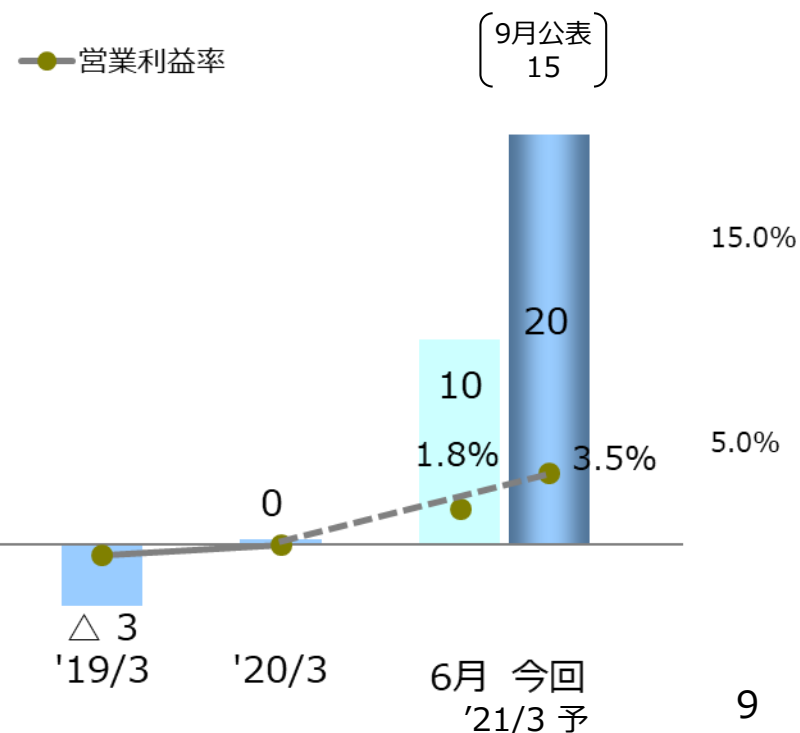
(億円) <セグメント間売上高消去後>

【売上高】



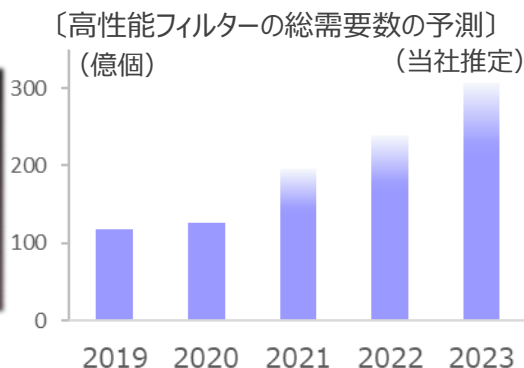
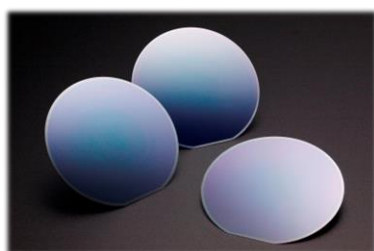
(億円)

【営業利益】



■ SAWフィルター用複合ウェハー（電子部品）

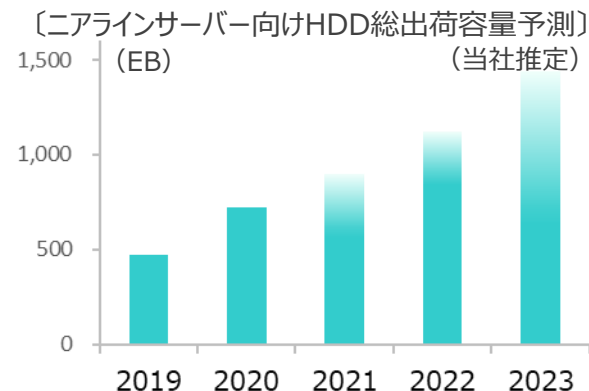
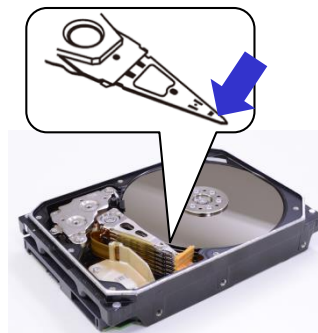
温度特性を高めた高性能SAWフィルター用複合ウェハー。スマホ需要は停滞しているが、5Gの普及など通信システムの高度化により要求性能が高まると共に、携帯端末のフィルター搭載数が増加し、高性能フィルター需要は拡大する見通し。



需要増加に対応し、生産能力を増強中。

■ HDD用圧電素子（電子部品）

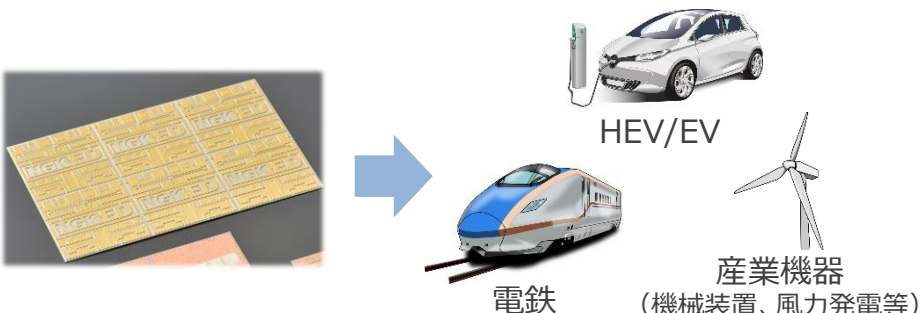
主としてデータセンターのニアラインサーバーに用いられる大容量HDD向けマイクロアクチュエーター。映像データ、IoTセンシング等の普及によりデータ生成量は年率20%超増加し、中長期にデータセンター投資が拡大する見通し。



山梨、マレーシア工場の増産を進め、拡大する需要に対応。

■ 絶縁放熱回路基板（電子部品）

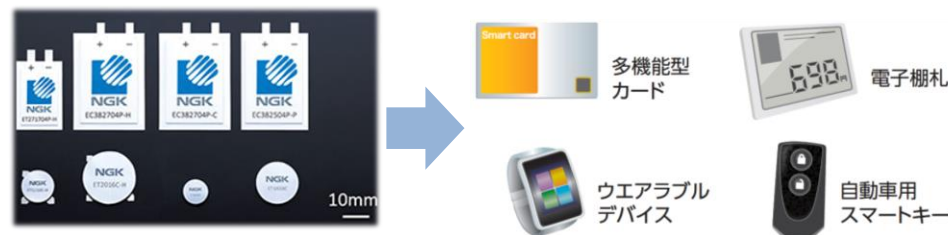
信頼性・熱伝導に優れた車載・産業機器のパワーモジュール向けセラミック回路基板。自動車の電動化（EV/HV）により中長期での需要拡大を見込む。



車載向け製品の開発を強化。

■ EnerCera® チップ型セラミックス二次電池（電子部品）

結晶配向技術を用いた正極材で小型・薄型で高容量、高耐熱性を実現したリチウムイオン二次電池。IoTデバイス市場やウェアラブル端末、スマートカードの拡大に伴い、需要が増加する見通し。



早期の売上・利益創出に向けてマーケティングの強化とコストダウンに取り組む。

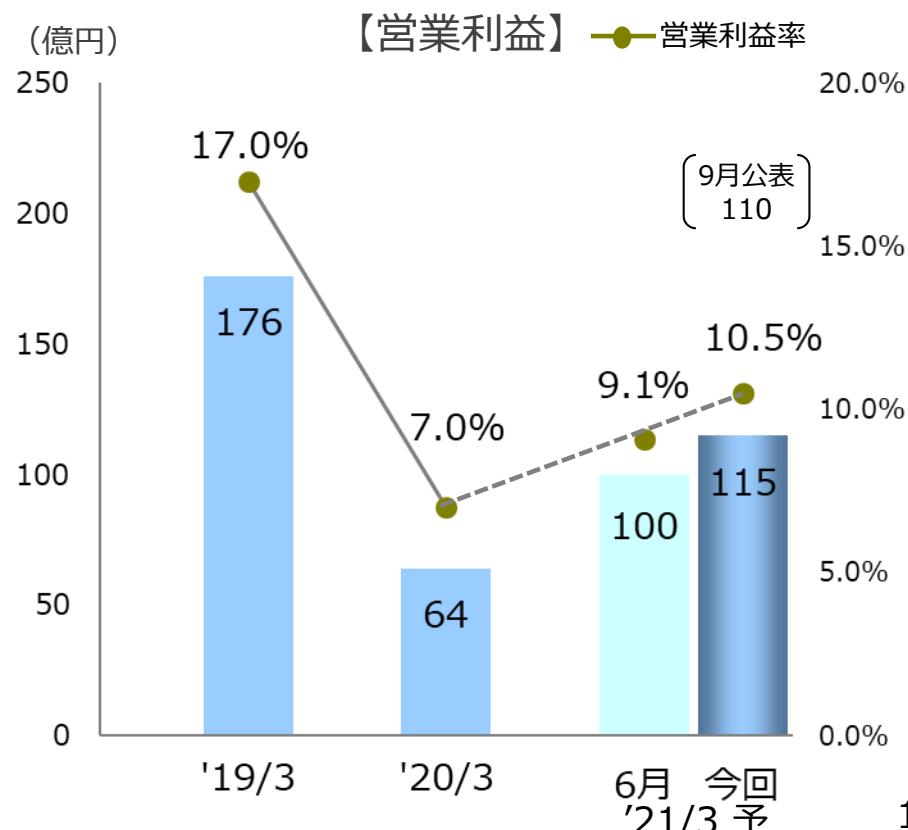
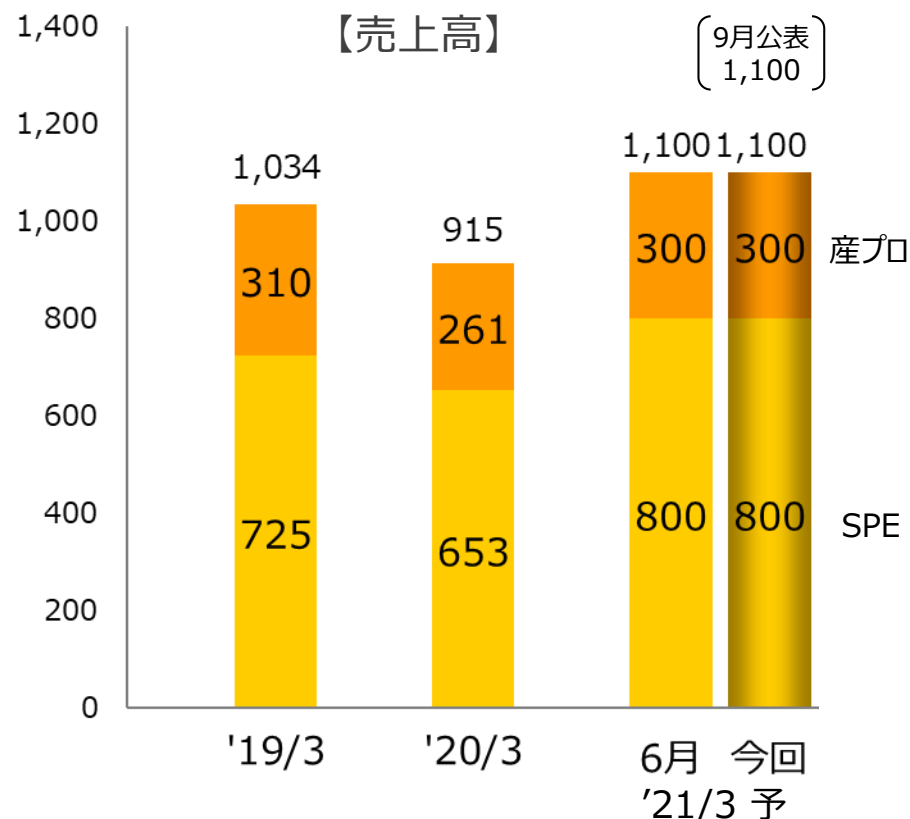
●半導体製造装置用製品（SPE）

- 半導体製造装置部品はスマホ需要の低迷等を背景にメモリ関連投資が低調も、テレワーク普及等によるデータセンター、PC、タブレット等の好調を背景にファウンドリ向け投資が堅調に推移し、全体で売上高は6月見通しどおりとなる見込み。利益は費用削減等により増益の見込み。

●産業フロンテック

- 低レベル放射性廃棄物処理装置等の出荷に大きな変更はなく、売上高・利益共にほぼ6月見通しどおり。

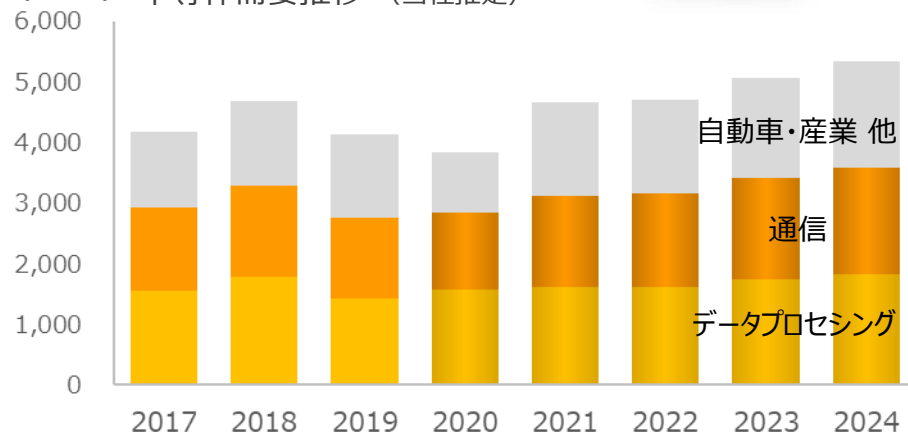
(億円) <セグメント間売上高消去後>



■ 半導体製造装置用製品



(億ドル) 半導体需要推移 (当社推定)



自動車・産業 他
通信
データプロセッシング

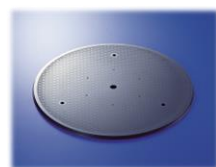
2020年の半導体需要はスマホ向けが鈍化するものの、データセンター向け等は堅調に推移。本格回復は2021年となる見込み。

当社 半導体製造装置用製品

サセプター (国内生産)



ヒーター (AIN)



静電チャック (アルミ、AIN)

チャンバー部材 (米国生産)

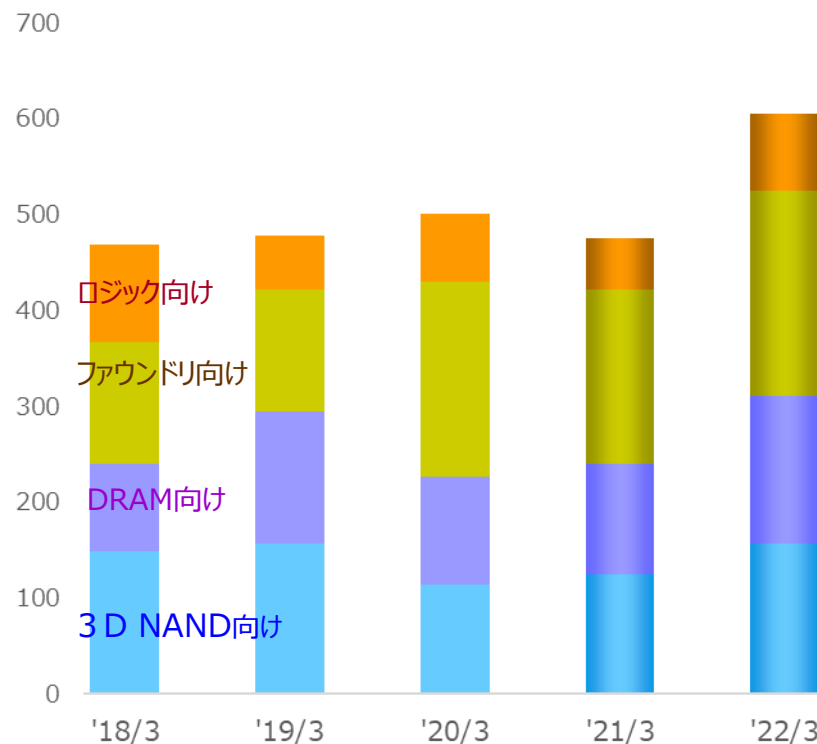


チャンバー部材 (アルミ)



チャンバー部材 (アルミ、溶射)

(億ドル) 用途別 半導体前工程製造装置 投資動向 (当社推定)



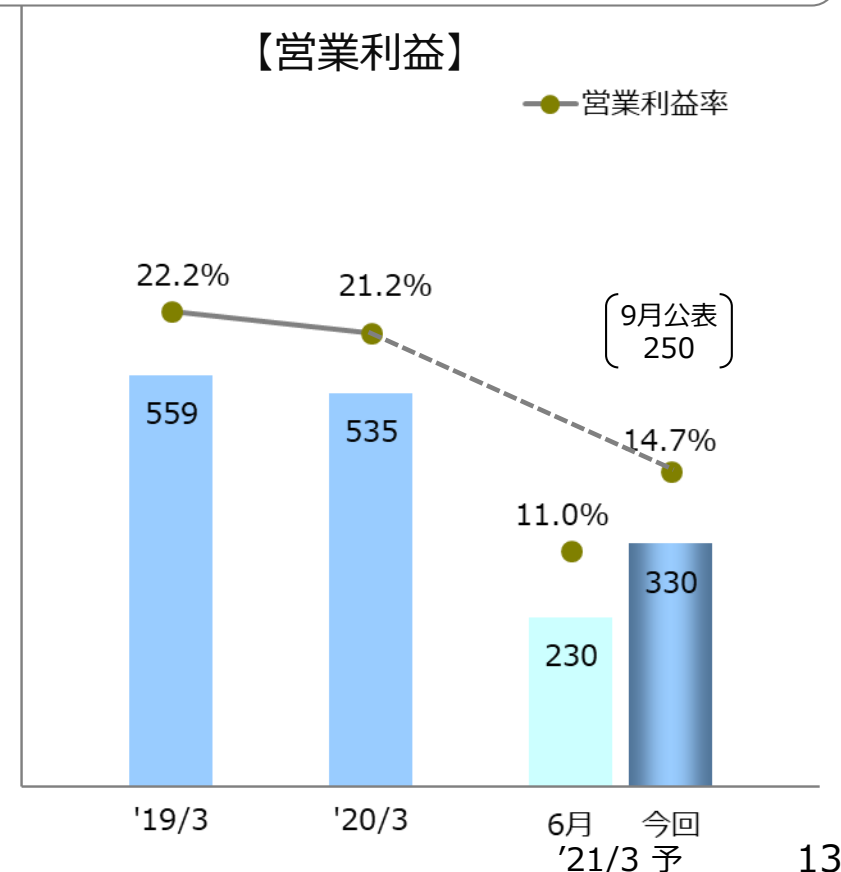
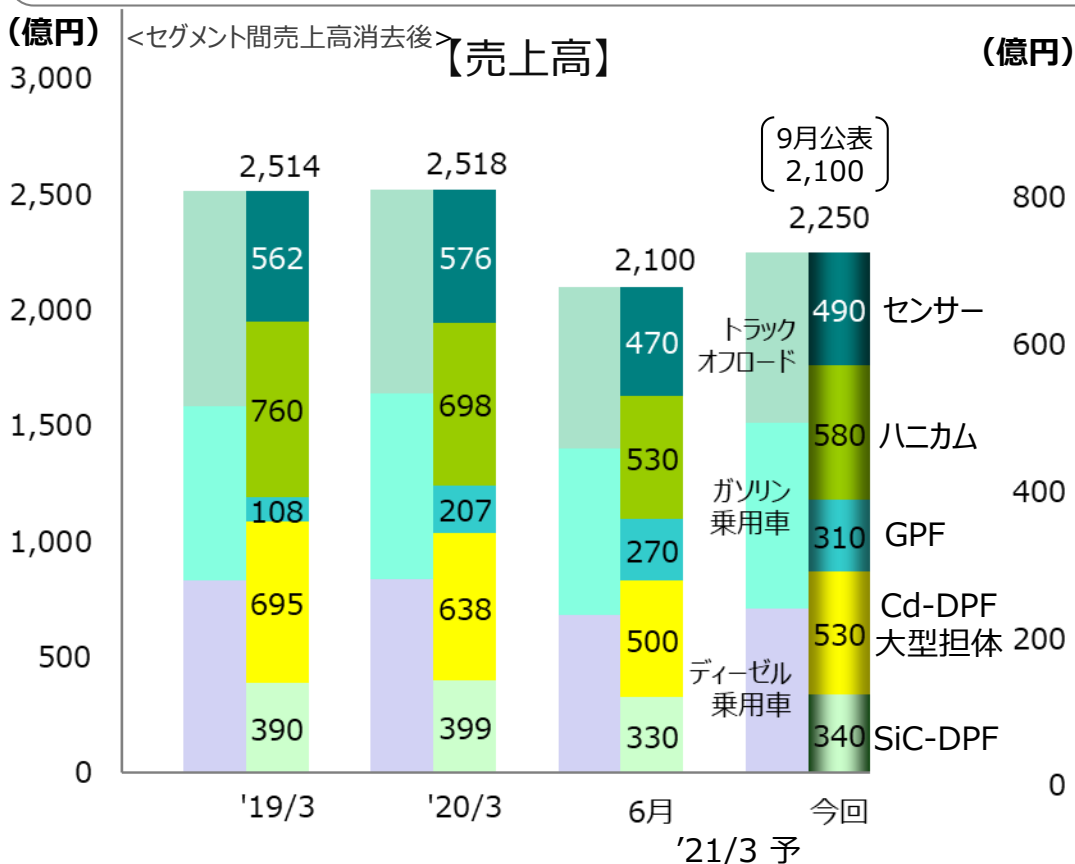
メモリー投資は19年度を底に21年度に本格回復。ファウンドリ向けは高水準な投資が継続。中長期ではAI化・5G拡大・IoTを背景とした半導体設備投資の拡大基調に変わりはない。

2021年以降の需要回復に伴い、当社の半導体製造装置用製品需要も増加が見込まれるため、高効率な多治見工場をフル活用し、利益の最大化を図る。

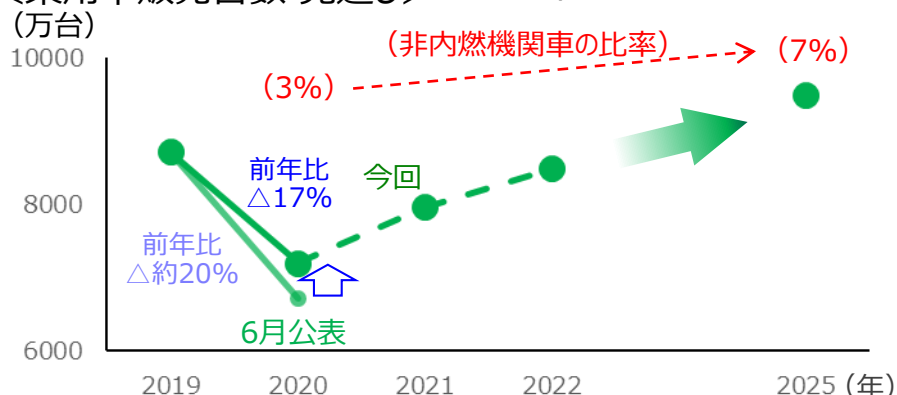
- 自動車関連…中国市場をはじめ各国で自動車販売や生産が回復しつつあり、乗用車販売台数の前提は6月見通しから改善する見込み。

利益は物量の増加に加え、費用削減の効果等により増益の見通し。

- ・GPF（ガソリン乗用車向け）：中国及び欧州を中心に回復基調にあり需要が増加する見通し。
- ・Cd-DPF/大型担体（トラック向け）：トラック販売台数が回復基調にあり、需要が増加する見通し。
- ・SiC-DPF/センサー（ディーゼル乗用車・トラック向け）：欧州ディーゼル乗用車比率は概ね想定通りに推移。販売台数の回復も順調に進み、当社製品の需要も増加する見通し。

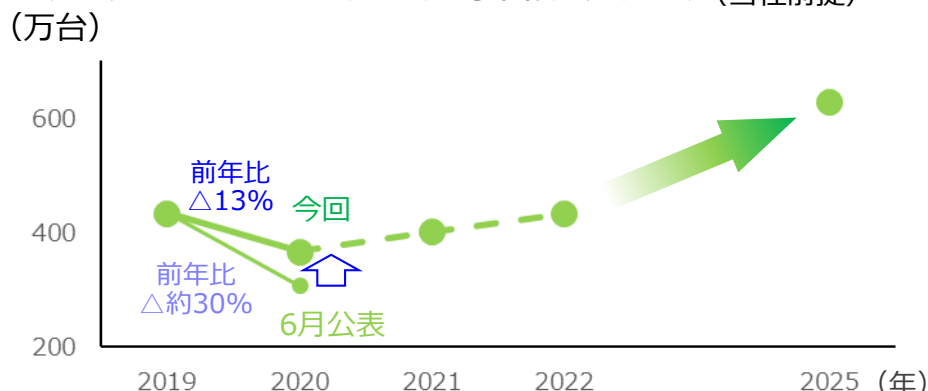


〔乗用車販売台数 見通し〕(当社前提)



乗用車販売台数は緩やかに回復。EV等の非内燃機関車の比率は、前回想定から拡大の兆候は見られず変化はない。中長期に各国で規制強化が進み、当社製品の需要が増加する見込み。

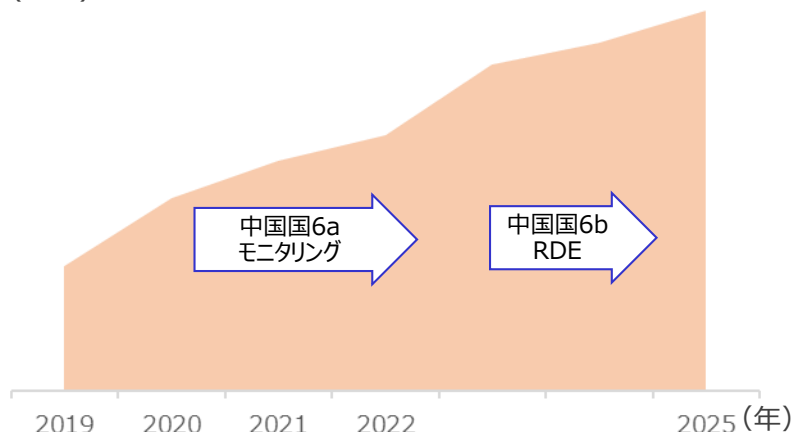
〔トラック・オフロード後処理対象台数 見通し〕(当社前提)



コロナ影響により足元の販売は鈍化するも、新興国の規制強化により対象台数は増加。2024年以降はインドの規制強化により、更に増加する見込み。

GPF(ガソリン乗用車向け)総需要の見通し

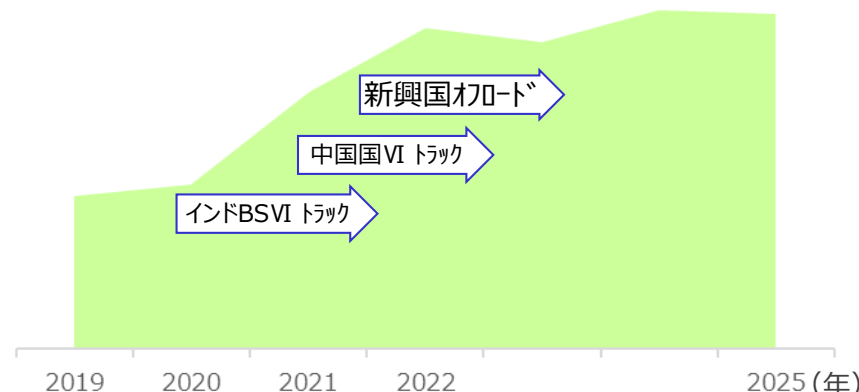
(個数)



中国の排ガス規制強化(国6a,b)により需要が増加する見通しも、足元の搭載率は減少。中長期ではその他地域で排ガス規制が進み、総需要は増加する見通し。

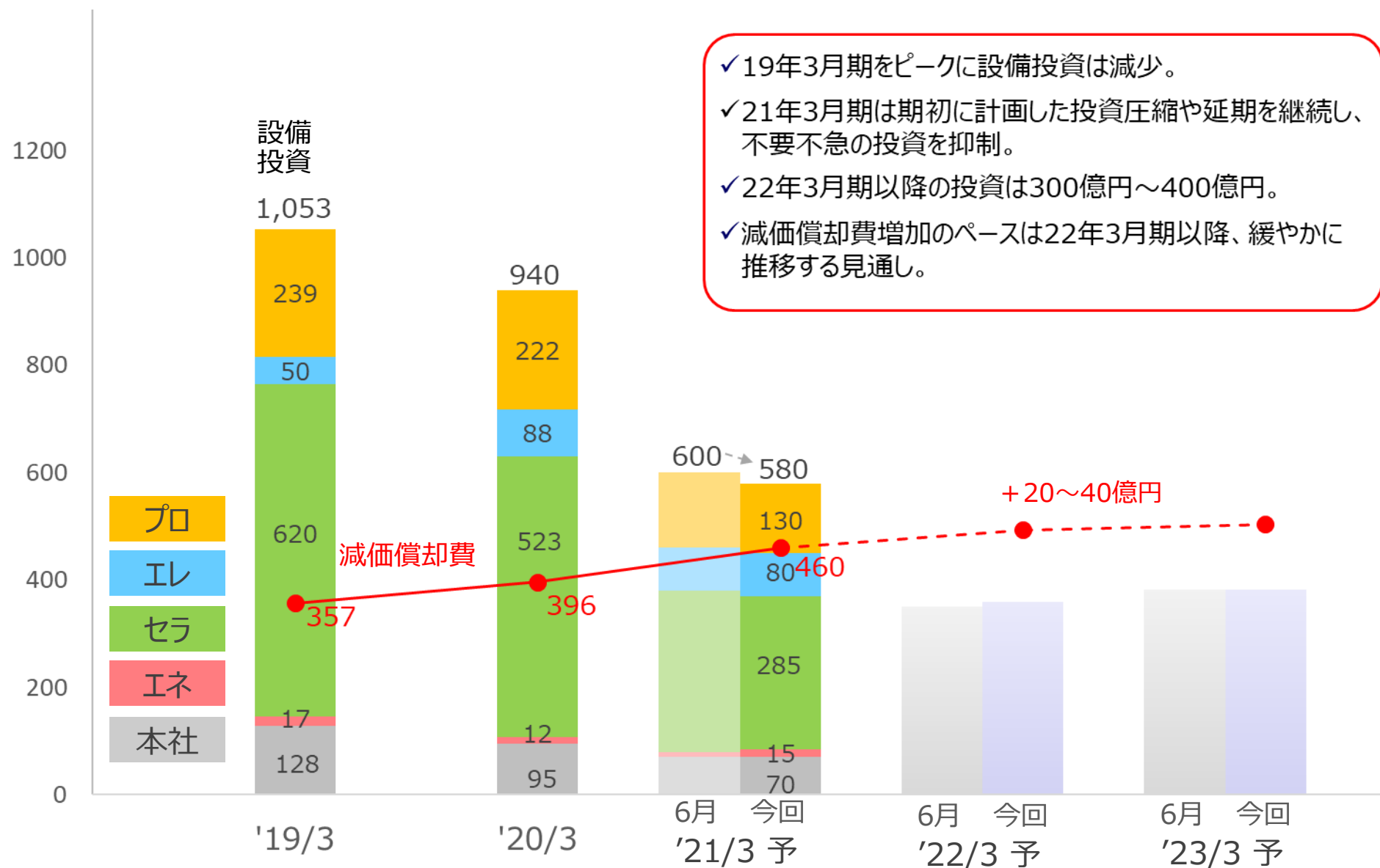
Cd-DPF(トラック・オフロード向け)総需要の見通し

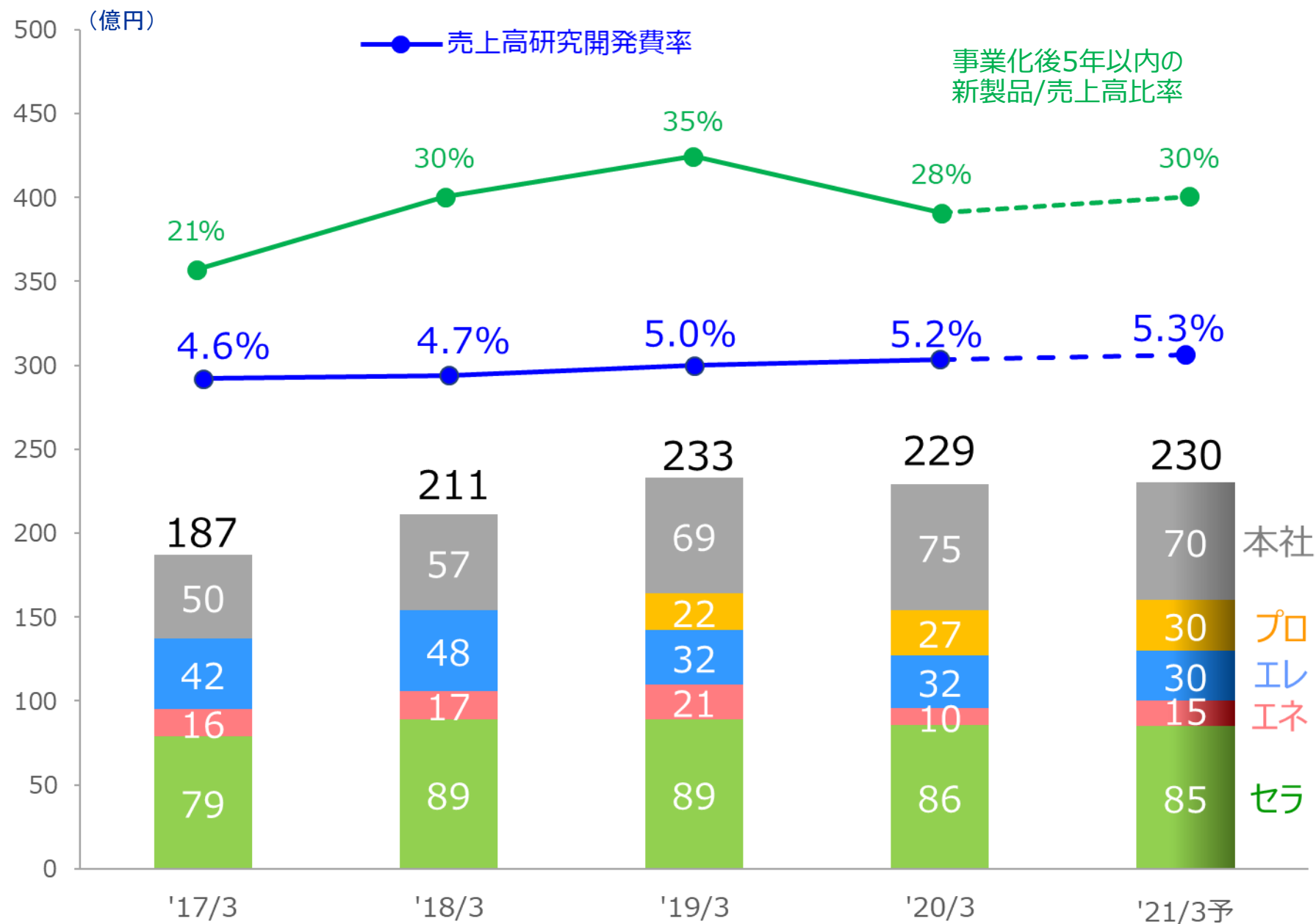
(容量)



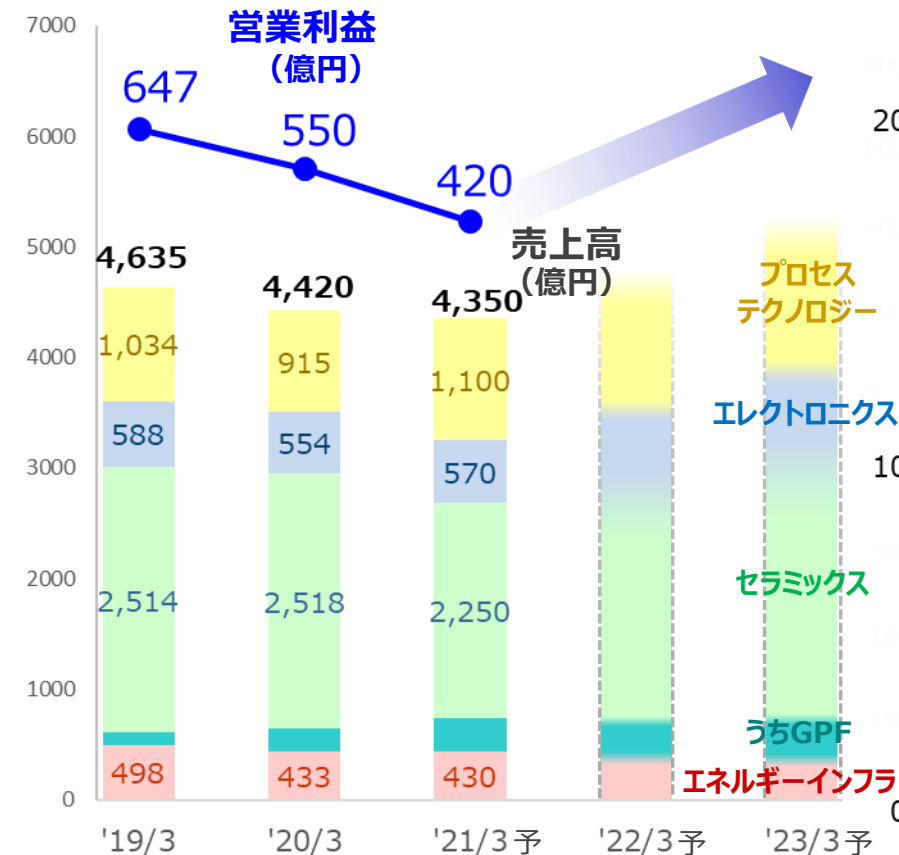
インド、中国、新興国の規制強化により、トラック・オフロード向け需要は順調に増加の見通し。

(億円)





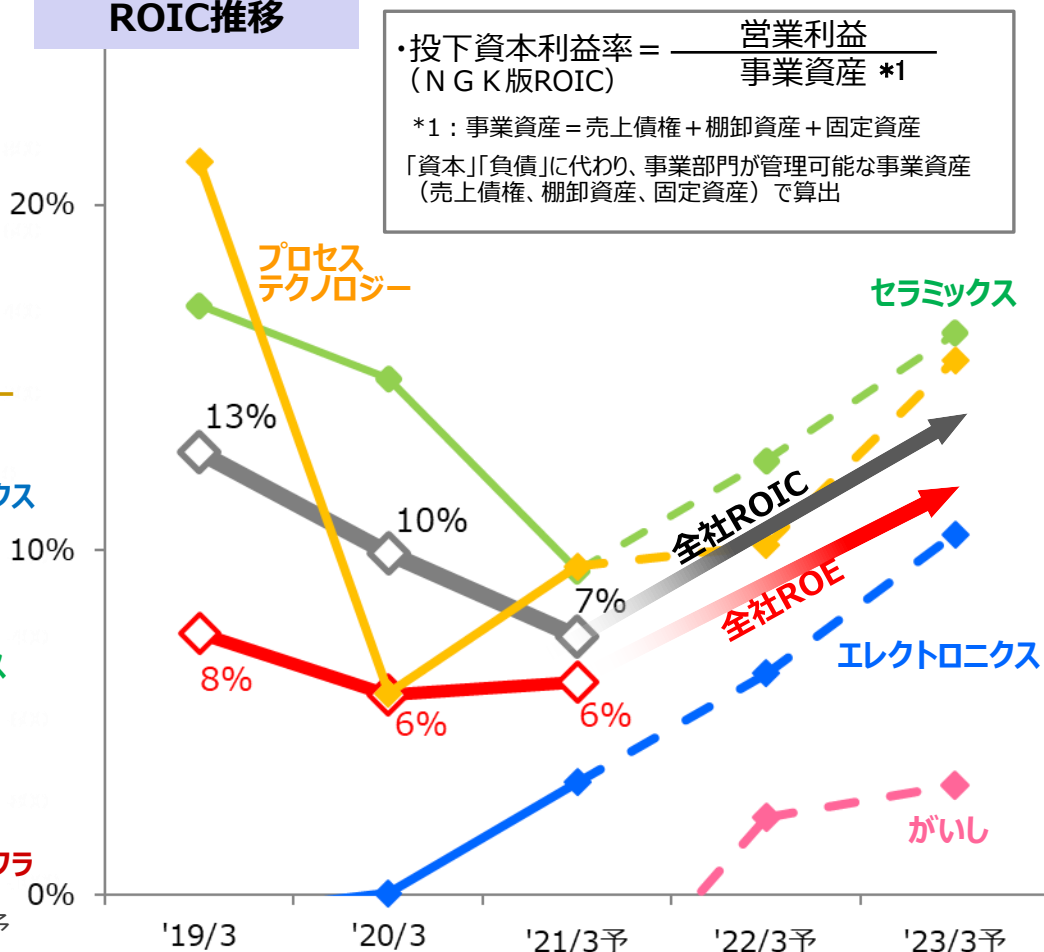
業績推移



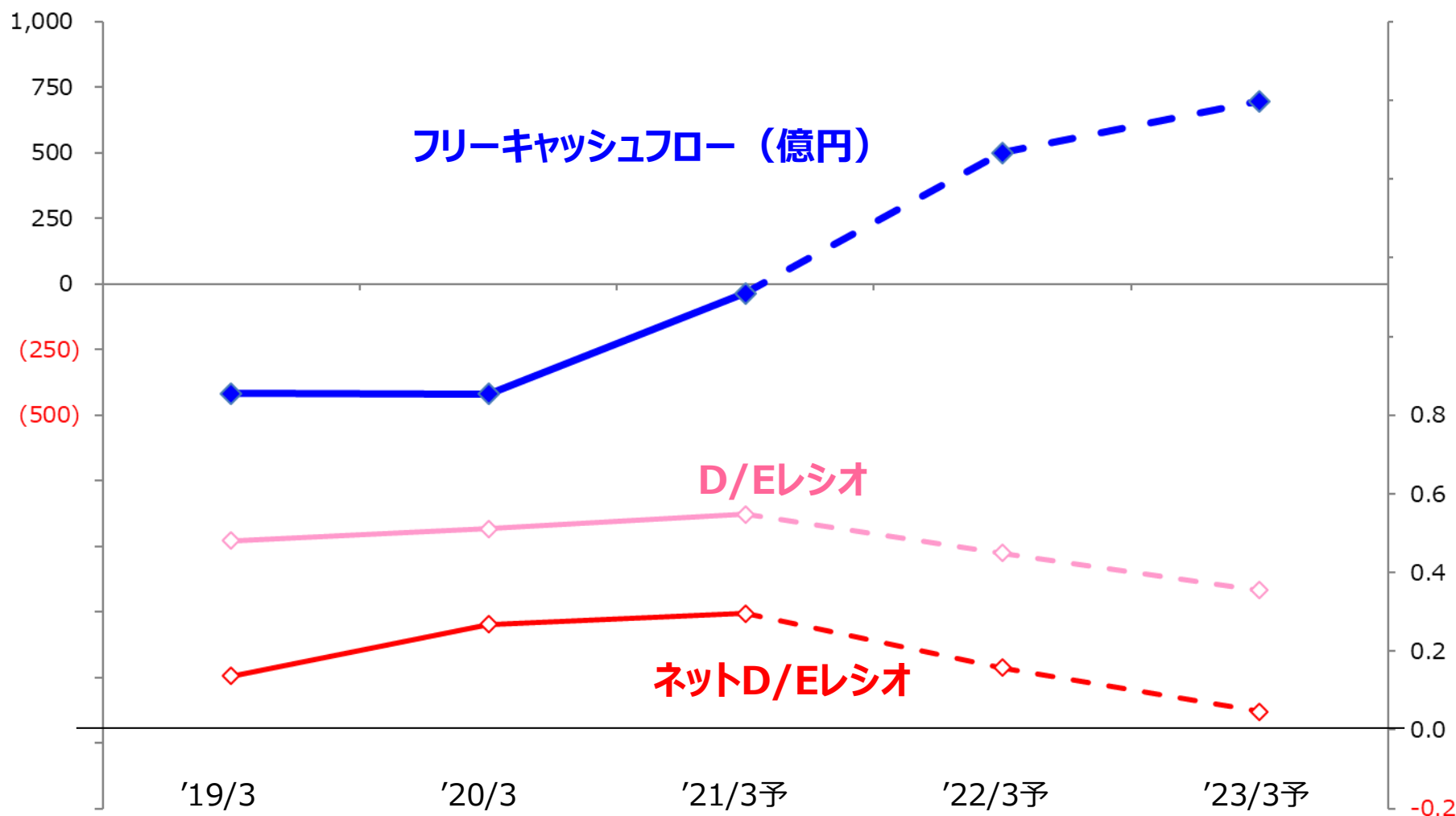
換算レート

USD	111	109	106	105	105
EUR	128	121	118	115	115

ROIC推移



GPFをはじめ新製品の売上を伸ばすと共に、ROE向上に向けて事業毎にNGK版ROICで目標管理を行い業績改善を目指す。

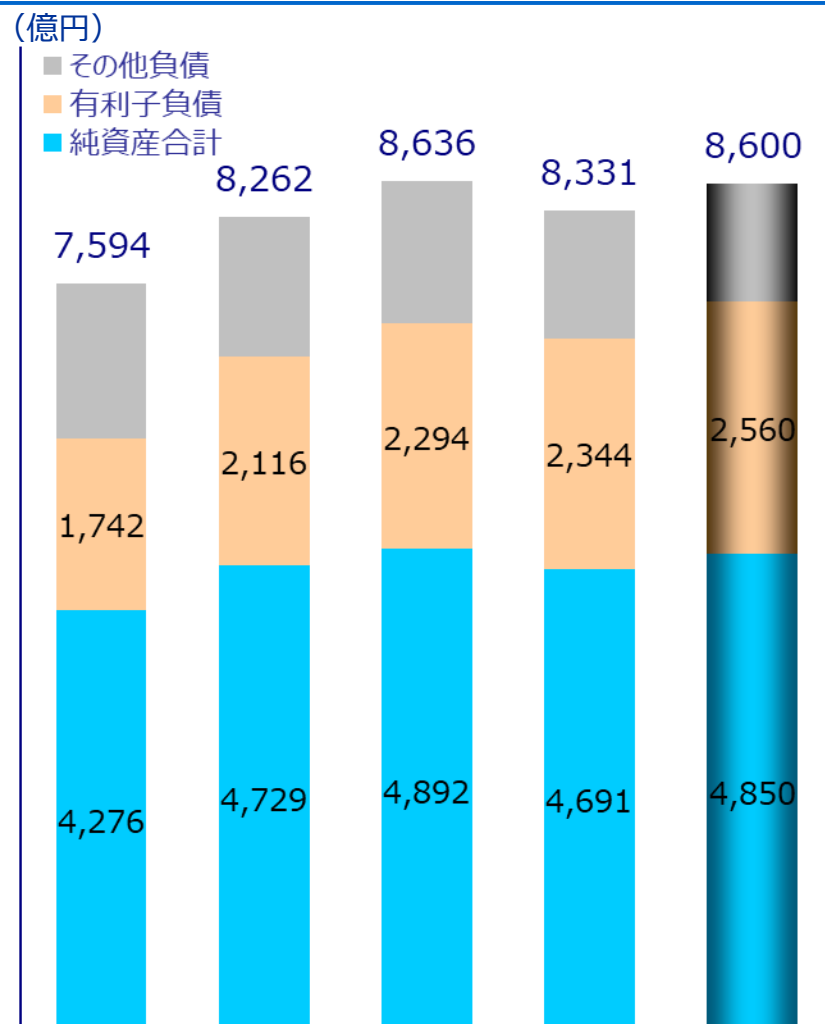


・コロナ影響による需要減少から投資回収が遅れ、当面、有利子負債が資金残高を上回る。

・DEレシオ、ネットDEレシオは21年3月期をピークに低下し、24年3月期にネットキャッシュはプラスに転じる見通し。

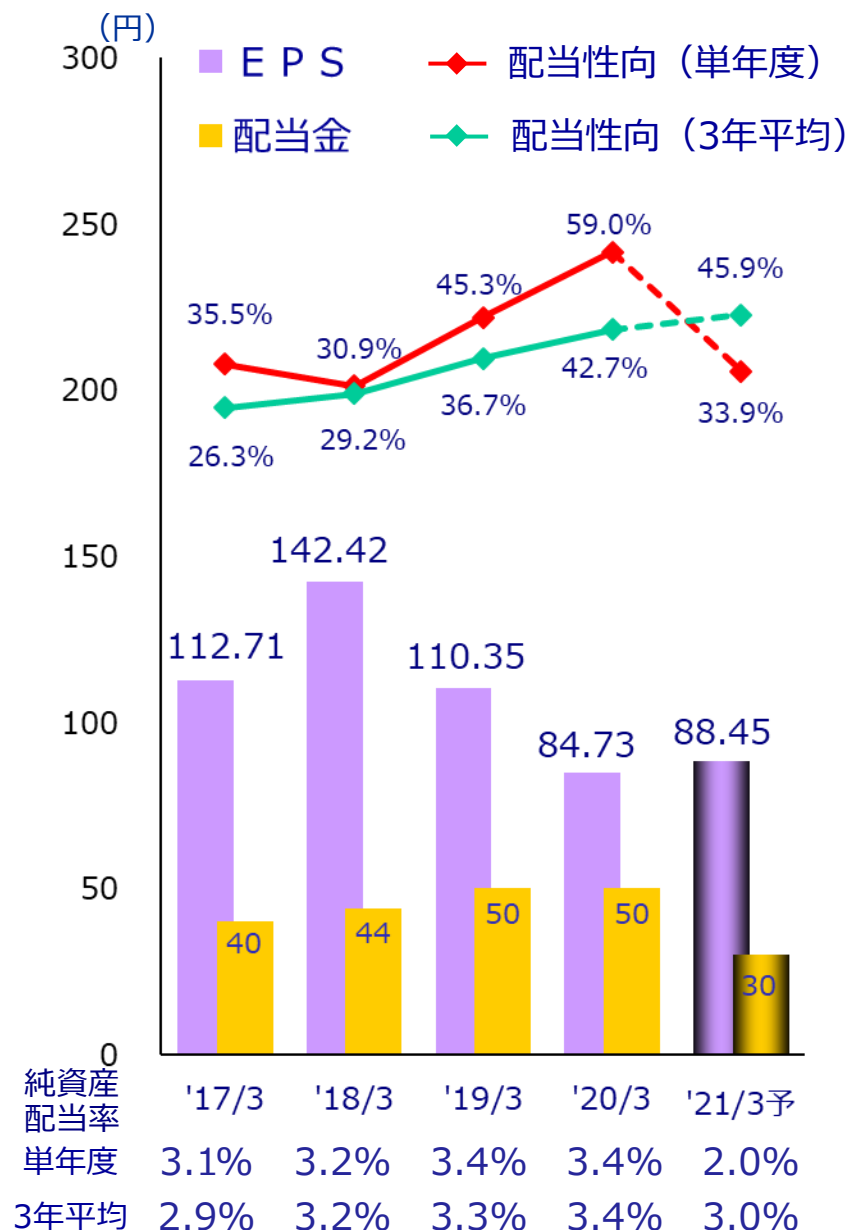
(億円)

	'19/3	'20/3	'21/3予
営業活動によるキャッシュ・フロー	612	532	(6月見通し) (450) 560
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,097 設備投資支払 △1,041	△608 設備投資支払△954	(△630) △610 設備投資支払△580
財務活動によるキャッシュ・フロー	36 新規借入+319 返済△108	△188 新規借入+370 返済△290 自己株買付△100	(110) 130 新規借入+330 返済△90
現金及び現金同等物に係る換算差額等	△10	△29	(0) △10
現金及び現金同等物の増減	△459	△293	(△70) 70
現金及び現金同等物期末残高	1,240	947	(877) 1,017



ROE	8.8%	10.4%	7.6%	5.8%	6.0%
DE	0.42	0.46	0.48	0.51	0.54
レシオ					

50%以上の自己資本比率を維持。



純資産
配当率
単年度
3年平均

事業別売上高（通期）

2021年3月期

（億円） 第2四半期決算説明会

<セグメント間売上消去後>	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期
が い し	525	467	408	400
エナジーストレージ	19	32	25	30
エネルギーインフラ合計	544	498	433	430
ハ ニ カ ム	779	760	698	580
G P F	765	108	207	310
Cd-DPF・大型ハニカム		695	638	530
S i C - D P F	408	390	399	340
セ ン サ ー	454	562	576	490
セラミックス合計	2,407	2,514	2,518	2,250
金 属	225	223	194	190
電 子 部 品	284	263	271	285
双 信 電 機	104	102	90	95
エレクトロニクス合計	613	588	554	570
産 業 プ ロ セ ス	271	310	261	300
半導体製造装置用製品	676	725	653	800
プロセステクノロジー合計	947	1,034	915	1,100
全 社 合 計	4,511	4,635	4,420	4,350

<セグメント間売上消去後>	20年3月期		21年3月期 (億円)	
	上期	下期	上期	下期
がいし	202	205	188	212
エネルギーストレージ	4	21	3	27
エネルギーインフラ合計	206	227	191	239
ハニカム	372	327	251	329
GPF	93	114	137	173
Cd-DPF・大型ハニカム	342	297	224	306
SiC-DPF	188	211	149	191
センサー	288	288	222	268
セラミックス合計	1,282	1,236	983	1,267
金属	99	95	88	102
電子部品	140	131	136	149
双信電機	44	46	44	51
エレクトロニクス合計	283	272	268	302
産業プロセス	129	133	107	193
半導体製造装置用製品	298	355	401	399
プロセステクノロジー合計	427	488	507	593
全社合計	2,198	2,222	1,949	2,401

本資料は当社の経営方針、計画、財務状況等の情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。

本資料に記載されている業績目標及び数値等はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績数値は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知置きください。



日本ガイシ株式会社

〒467-8530 名古屋市瑞穂区須田町2-56

IR窓口：財務部 開示グループ

Tel. (052) 872-7210 Fax. (052) 872-7160

E-mail: ir-office@ngk.co.jp

Website: <https://www.ngk.co.jp>

